

梅光学院大学表千家茶道部紹介

茶の湯のこころと美に魅せられて

梅光学院大学表千家茶道部は、平成八年、下関市内東駅の梅光女学院大学短期大学の文化部の一つとして始まりました。平成十三年に梅ヶ峠キャンパスの大学が男女共学になったのを受けて校名を梅光学院とし、平成十四年に大学が梅ヶ峠から東駅に移転したのを機に大学・短大合同のクラブに改変、平成十八年の短大閉校によって現在のクラブになりました。学内には裏千家クラブもあります。稽古は毎週水曜日十六時頃から二時間程度、外部講師を招いて学生食堂二階の和室で行っています。現在は坂本美都子先生、益田万里子先生、お二人です。内容は炉と風炉の薄茶点前を中心に、小棚大棚も習い、四年生には濃茶の指導もあります。毎年、秋の大学祭(ルーキス祭)で薄茶一席で釜を懸けています。

また、明治五年創立の伝統あるミッシヨンスクールとして、クリスマス時期には学内に抹茶を振舞って好評を得ています。大学の国際交流の一環として、短期来日留学生を対象に茶の湯講座を開いたり、姉妹校からの来賓を薄茶席でお迎えすることもあります。下関という土地柄から、学生の半数は福岡県を中心とする九州勢です。下関青年部の催しに参加する他、北九州市立大学や若松学研都市の茶会に行くなど、関門地域ならではの交流があります。

部員数は年度により異なりますが、十名程度で男女混合。海外からの長期留学生もいます。日本人部員の殆どは中高での茶道経験がありませんが、ほぼ全員が卒業するまでに飾物まで免状を取り、お家元の短期講習に参加する熱心な学生も複数出ています。

生活文化としての茶の湯への関心は高く、そのあり方は、歴史や文学と関連づけての興味だったり、欧米留学の体験から改めて日本の伝統を見直したり、美術工芸への傾倒から茶道具に興味を持ちたり、市中の山居といわれる非日常性に安らぎを見出したりなど、多様です。

どの部員も日々の活動を通して日本の四季を楽しみ味わうとともに、茶の湯のもてなしのこころを身につけた良き社会人となって欲しい、そして生涯の糧として茶の湯を続けてくれるようにと願っています。



梅光学院大学茶道部顧問

茶道部指導者

湯浅 直美
坂本美都子
益田万里子